

常葉大学 地域貢献センター

活動報告



目次

地域貢献センターのご案内	2
地域貢献センターの使命	
地域貢献センター長 ご挨拶（『コロナ禍と地域貢献』）	
地域貢献センター開設の目的	
地域貢献センターの取り組み・業務内容	
大学と地方自治体等との包括的連携協定	
学内外の助成を活用した連携事業	5
地域交流・連携推進事業（学内事業）	
しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業	
藤枝市地域政策研究・創造事業	
ふじのくに地域・大学コンソーシアム「ゼミ学生地域貢献推進事業」	
オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業（継続）	
スポーツ庁「スポーツによる地域活性化推進事業」	
地域連携活動の事例紹介	7
包括的連携協定締結先との連携による事業	
地域や企業等との連携による事業	
学生の地域貢献活動への支援	9
ここは未来塾 ～TU can Project～	
事業報告会	
公開講座等の開催	11
大学公開講座	
市町等との連携による講座	
地域からの期待と活躍する学生たち	13
事例紹介	
ここは Web 通信 —新型コロナウイルスを考える—	14
配信記事紹介	

地域貢献センターのご案内

地域貢献センターの使命

常葉大学は、地域に開かれた大学として、本学の持つ資源の地域への還元を推進します。地域貢献センターは、本学の地域・社会貢献に関する、ありとあらゆる取り組みを推進するセンター機能を有しています。

- ◆建学の精神および教育理念を**具現化**する
- ◆高等教育機関としての「**知的財産**」を**社会へ還元**する
- ◆地域社会の**活性化および進展**に貢献する
- ◆大学が**組織的**に活動していくための「**地域連携の拠点**」とする
- ◆学生と地域の方をつなげることで**実践的な教育を推進**する
- ◆地域社会に**貢献できる人材を育成**する



地域貢献センター長 ご挨拶

コロナ禍と地域貢献



常葉大学 地域貢献センター長

須佐 淳司

日ごろは地域貢献センターにご支援とご協力を賜わり誠にありがとうございます。

「地域貢献」は本学の教育理念のひとつに掲げられているものです。私たちは、静岡県全域に広がるキャンパスを持つ総合大学として地域の課題解決ニーズに応え、そして地域人となる学生の育成に努めております。

令和2年度、本センターは発足から3年を迎えました。オリンピック・パラリンピックイヤーとして期待に溢れるスタートを切ったのも束の間、世界中が新型コロナウイルスに翻弄された年となりました。緊急事態宣言が発令され、不要不急の外出自粛や各種施設への休業要請が行われ、教育機関の臨時休校やオンライン授業の実施などによって、学生の活動全般が制限されるに至りました。そのような中でも、本学では学長の「教育を止めない」の声のもと、様々な対策が講じられ、比較的早い時期から学生が大学に戻ることができました。

当センターでも、コロナ禍における“これからの地域貢献”について考え、この一年間活動して参りました。地域に出て活動を行う学生団体への支援や指導（P.9 学生の地域貢献活動への支援、P.13 地域からの期待と活躍する学生たち参照）、地域の方々のニーズに応え「新しい生活様式」の実践に役立つ公開講座の開催（P.11 公開講座等の開催を参照）など、従来の取り組みを工夫し、試行しながらの挑戦となりました。

コロナ禍に“できること”を“できる方法”で推進し、これからも地域の中軸として地域の発展、活性化に貢献していきたいと考えております。今後とも、本学の地域貢献活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

地域貢献センター開設の目的

常葉大学は平成30年4月の静岡草薙キャンパス開設を機に、これまで以上に地域に開かれた大学を目指し、組織的に地域への貢献を促進するために、地域貢献センターを開設しました。さまざまな取り組みを通じて、地域社会の活性化を図るとともに、地域社会に貢献できる人材を育成しています。また、地域と大学、地域と学生を結ぶ地域連携の拠点として、地域社会の発展に貢献していきます。

地域活性化の必要性を訴える地域の皆様方からの声や、若者が集まる大学に対する高い期待も寄せられています。地域貢献センターは、地域・社会に貢献する学生の活動支援、地方自治体や地元企業等と本学教職員との連携・協力のコーディネート、地域の諸課題に係る情報収集・分析・調査、公開講座の運営など幅広い支援業務を実施しています。

～地域課題を解決し、学生の主体性を育てる新たな拠点へ～



地域貢献センターの取り組み・業務内容

専門を活かした産学官 および地域連携推進	公開講座・講演等 (生涯学習)	学生活動支援 (ボランティア含む)	その他
<ul style="list-style-type: none">◇ 地元自治体・諸団体との連携◇ 学部・学科等の地域貢献活動の支援◇ 包括的連携の推進	<ul style="list-style-type: none">◇ 一般の方、地域住民の方(正規学生以外)に対する高等教育の提供◇ 外部資源を活かした教育・研究活動の充実◇ 施設の開放の推進	<ul style="list-style-type: none">◇ 地元自治体はじめ諸団体との連携協力◇ 学部・学科等の地域貢献活動の支援◇ 学生独自の地域貢献活動への支援	<ul style="list-style-type: none">◇ 地域連携に関する情報管理・発信(広報活動)

大学と地方自治体等との包括的連携協定

これまでに協定を締結した自治体等は次のとおりです。

No.	協定書の名称	協定締結先	協定締結日
1	松崎町と常葉大学との包括連携に関する協定書	松崎町	2015年10月13日
2	掛川市と常葉大学との包括的連携に関する協定書	掛川市	2015年11月13日
3	藤枝市と常葉大学との包括連携に関する協定書	藤枝市	2016年3月24日
4	静岡市と常葉大学との包括連携に関する協定書	静岡市	2016年6月14日
5	浜松市と常葉大学との包括連携に関する協定書	浜松市	2017年3月27日
6	特定非営利活動法人掛川市体育協会と常葉大学 浜松キャンパスとの連携に関する協定書	特定非営利活動法人 掛川 市体育協会	2017年9月15日
7	常葉大学とI Love しずおか協議会との連携・協力に 関する協定書	I Love しずおか協議会	2017年10月26日
8	静岡市文教エリア等の発展に向けた相互協力に係る 協定書	静岡市内の複数高等教育 機関等	2017年10月26日
9	公益財団法人浜松市体育協会と常葉大学との連携に 関する協定書	公益財団法人 浜松市体育 協会	2018年7月27日
10	常葉大学と静岡銀行との相互協力及び連携に関する 協定書	株式会社 静岡銀行	2018年8月28日
11	常葉大学と静岡県警察との包括的連携協力に関する 協定書	静岡県警察	2018年11月1日
12	学生ボランティア活動推進に関する協定書	公益財団法人 日本財団 学 生ボランティアセンター	2019年12月16日



学内外の助成を活用した連携事業

地域社会の活性化や進展を目指し地域との連携を推進するため、学内外の助成や補助を受けたプロジェクトを支援しています。（代表者及び担当教員の職位等は採択時点のものです）

地域交流・連携推進事業（学内事業）

本学の教職員が個人及びグループで地域住民や関係機関等と連携して実施する研究に対する支援事業です。

No.	研究テーマ名	代表者
1	スポーツによる地域活性化を目指した「ベルテックス静岡」との連携事業	教育学部 教授 木宮敬信
2	静岡市の東静岡にぎわい創出事業への支援	教育学部 准教授 堀切正人
3	下田市における「チーム学校」を実現する支援員の資質・能力向上モデルの在り方	教育学部 准教授 木村光男
4	多文化共生社会実現に資する外国人住民への支援及び日本人住民の意識涵養事業	経営学部 准教授 坂本勝信

※事業報告会を令和3年9月に実施予定

しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業

しずおか中部連携中枢都市圏と地域大学との連携拡大の促進や、大学の研究成果を地域の発展に活かすことを目的とし、地域課題の解決に向けた方策の提言・実践的な研究を各市町と一体となって実施する事業です。

（静岡市・島田市・焼津市・藤枝市・牧之原市・吉田町・川根本町）

No.	課題名（連携市）	担当教員名
1	幼児期における生物多様性学習プログラムの開発（静岡市）	健康プロデュース学部 准教授 中村俊哉
2	人生100年時代、高齢者の地域活動・社会参加を促進したい！（静岡市）	教育学部 教授 猿田真嗣
3	ニューノーマル時代のテレワーク（静岡市）	経営学部 准教授 小豆川裕子
4	静岡県立川根高等学校の魅力化向上（川根本町）	外国語学部 准教授 鈴木克義
5	with コロナ時代に求められる駅前広場の将来像の提案（静岡市）	教育学部 教授 佐瀬竜一
6	田代地域の自然環境保全対策のPR（島田市）	経営学部 講師 山田雅敏

藤枝市地域政策研究・創造事業

藤枝市と本学との包括連携に関する協定の一環として、藤枝市の地域課題の解決に向けた学生参加による方策の提言、実践的な研究に対して助成される大学連携研究事業です。

No.	課題名	担当教員名
1	藤枝いいトコ発見隊 ～植物は未来へのパスポート～	社会環境部 准教授 浅見佳世

ふじのくに地域・大学コンソーシアム「ゼミ学生地域貢献推進事業」

大学・大学生と地域の交流の拡大を促進し、大学の研究成果を地域の発展につなげることを目的に、地域課題の解決に向けた方策の提言・実践的な研究を各市町や地元企業と一体となって実施する事業です。

No.	課題名（連携先）	担当教員名
1	若者のライフスタイルとクルマの未来（静岡トヨタ㈱）	経営学部 准教授 小豆川裕子
2	富士山西麓における草原の持続可能な維持管理についての提案（富士宮市）	社会環境学部 准教授 浅見佳世
3	2020 教育改革に対応するための新たな保幼小連携プロジェクト（裾野市）	保育学部 教授 山本 睦
4	「デザイン×ICT×共創」による地域課題解決プロジェクト（三島市）	造形学部 教授 安武伸朗
5	草薙駅周辺地区のまちづくりに係る広報啓発資料等の作成（静岡市）	造形学部 教授 土屋和男
6	学生と企業のミスマッチをなくす魅力的な就職活動のあり方（静岡市）	経営学部 講師 鈴木章浩

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業（継続）

浜松市と浜松市内各大学（常葉大学・浜松学院大学・聖隷クリストファー大学・浜松医科大学・静岡文化芸術大学）が相互協力および連携のもと、双方の資源を有効に活用して子供たちへのオリンピック・パラリンピック教育を推進する事業です。

No.	課題名	担当教員名
1	浜松市内小中学校におけるオリ・パラ教育の推進・協力	健康プロデュース学部 教授 小柳好生 他6名

スポーツ庁「スポーツによる地域活性化推進事業」

日頃から運動をしていない地域の人たちに、運動・スポーツに興味・関心を持ってもらい、習慣化を図るための“スポーツを通じた健康増進”に取り組む事業です。

No.	課題名（連携先）	担当教員名
1	運動・スポーツ習慣化促進事業（静岡市）	保育学部 准教授 今村貴幸

地域連携活動の事例紹介

令和2年度に実施した連携活動や連携事業の一例を紹介します。

包括的連携協定締結先との連携による事業

石部棚田の保全活動
畔切り・草取り・収穫への参加
〔松崎町〕



企業紹介冊子の制作
企業取材・原稿作成・表紙デザイン
〔藤枝市〕



“しずファン・プロジェクト”
企画・立ち上げ
〔静岡市〕



シティプロモーション市民協働会議
「学生による掛川市の魅力発見」
動画を作成
〔掛川市〕



浜松市と大学との連携事業
大学生による講座
〔浜松市〕



SDGs 推進プラットフォーム
取り組みを発表
〔浜松市〕



らぶしずプロジェクト
「静岡おまち NAVI」を活用した
商店街活性化策の検討
〔I Love しずおか協議会〕



「小学生 陸上教室」や
「キッズトレーニング」を開催
〔浜松市体育協会〕



多言語防犯対策ガイドを作成
スペイン語、ポルトガル語、韓国語
〔静岡県警察〕



地域や企業等との連携による事業

スポーツによる地域活性化を
目指した連携事業
〔ベルテックス静岡〕



学生と企業のミスマッチをなくす
魅力的な就職活動のあり方
〔日本経済新聞社・
ヤマハ株式会社〕



若者のライフスタイルと
クルマの未来プロジェクト
〔静岡トヨタ自動車株式会社〕



オリパラ教育推進事業
「スポーツ SDG s」の開催
〔浜松市教育委員会〕



経営学部マーケティングゼミ
& 造形学部 コラボイベント
〔松坂屋静岡店〕



短大生による企画・準備・運営！
「知りたい！私のセンスアップ
カラー講座」を開催
〔静岡市生涯学習センター〕



高校生向け
選挙啓発冊子の作成
〔静岡市選挙管理委員会〕



浜松市健康応援サイト
「WEL はままつ」への協力
〔浜松市健康増進課〕



運動部に所属する中高生の食を
サポートするパンフレット配布と
アンケート調査での協力
〔株式会社遠鉄ストア笠井店〕



健康づくりの知識を地域に広げる
「健幸アンバサダー」活動
〔NPO 法人静岡県食育協会〕



親子体験型ワークショップの
企画・運営
〔静岡県立美術館〕



“サイバー防犯”ボランティア
への学生の参加
〔静岡県警察サイバー犯罪対策課〕



学生の地域貢献活動への支援

とこは未来塾 ～TU Can Project～

学生ならではのユニークな「視点と発想」をもち、「熱意と創意」に満ちた自主的・自発的な取組に対し、大学から教員アドバイザーによる助言や活動資金の援助などの様々な支援を行う事業です。このプログラムに取り組むことで、大学が立地する静岡県を中心とした地域社会への貢献を果たすとともに、学生の若い力が地域の活性化に結び付き、最終的に学生の社会性の醸成に繋がることを期待しています。

◆ 令和2年度採択事業

各キャンパスより応募のあった全17件プロジェクトのうち、審査の結果、11プロジェクトが採択されました。プロジェクトは3つの分野に分かれています。

タイプA：開かれた大学づくり

タイプB：地域貢献・活性化

タイプC：現代的課題解決

No.	分野	プロジェクト名	グループ名
1	B	子育て支援プロジェクト「おもちゃスタート」 ー赤ちゃんにおもちゃを届けようー	子どもと保育の未来空間 (保育学部村上ゼミ)
2	B	サイエンスカフェ	村井ゼミ
3	B	Dear 静岡人 ～みつけた！ コロナに負けない静岡～	ミズオチ交流会
4	C	Gender equality for students ー静岡市におけるジェンダー教育の推進ー	ジェンダー研究プロジェクト
5	C	自治体職員向け建物被害調査プログラムの開発と試行	合同田中ゼミ
6	C	コロナウイルスに負けないぞ！ ～みんなで守って げんきっず～	保育学部赤塚ゼミ3年
7	A	学生トレーナーによる高校運動部に所属する生徒への コンディショニングセミナー事業	ATサークル CATS
8	B	運動部に所属する子どもの保護者への栄養セミナー ー勝負に挑むジュニアアスリートの縁の下の力持ちー	食プロデュースサークル スポーツ栄養学グループ
9	B	アスリートのためのサポ飯 ー腹が減っては勝負は出来ぬー	食プロデュースサークル
10	B	東日本大震災から10年、「未来に繋ぐ」これからの10年	3.11 はままつ東北復光 プロジェクト
11	B	心身マネジメント学科の学びを活かした安全教育教材の開発	木村ゼミ

◆ 事業報告会

3月4日（木曜日）に「令和2年度とこは未来塾 –TU can Project– 報告会」を開催しました。

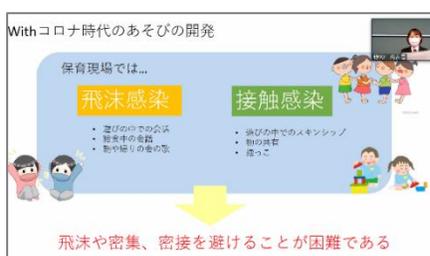
本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催方法を変更し、オンライン配信によって全11団体の活動成果を静岡キャンパスと浜松キャンパスから発表しました。



令和2年度の「とこは未来塾」は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、例年よりも短い約5か月の活動期間となりました。これまでと同じ活動ができない中、オンラインを活用して県外の学生団体を交えて活動した団体や、地元商店街と共同で静岡の魅力を発見するインスタグラム写真展を実施した団体など、時勢に合った活動の報告が目を引きました。

発表では、各団体の目的達成や課題解決のために仲間と力を合わせた様々な活動が報告され、多くの成果と経験が得られたことが伝わりました。また、各団体とも10分間の与えられた持ち時間を有効に使用し、アニメーションや動画を活用するなど活動内容を

画面の向こう側の相手に伝える工夫を凝らした発表でした。活動内容は勿論のこと、コロナ禍という逆風の中で培ったオンラインでの発信スキルを存分に発揮してくれたと思います。



閉会挨拶では、地域貢献センター・木村佐枝子副センター長が、様々な制約があるコロナ禍での活動を通して臨機応変な対応力が身についたことを評価し、この活動によって得た知見や自身の成長を今後の活動の糧として今後も活動を継続して欲しいと学生にエールを送りました。

初めてのオンライン開催となりましたが、地域の方々や教職員・学生など多くの方々にご視聴いただき、学生の地域貢献活動に対して温かいお言葉や貴重なご意見をいただく機会となりました。3密回避の観点から、恒例のポスターセッションや学生交流を実施することはできませんでしたが、新しいスタイルで有意義な意見交換を実施することができました。

これからも地域貢献センターは、変化の激しいこの時代においても地域の活性化に貢献していく学生生活の支援を続けていきたいと思っております。



公開講座等の開催

大学公開講座

本学の教育理念の一つである「地域貢献」を目的とし、本学の重要な使命である「諸事業を通じた地域社会の活性化・進展に貢献する」という開かれた大学を象徴する事業の一環として公開講座を実施しています。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で一変した生活において、「多様化するビジネス・生活に役立つ」「人生100年時代を楽しむ」「心の健康・身体の健康を考える」を切り口に17講座（計38講義）を開催しました。

No.	講座名	実施学部	回数
1	キーワードから知る世界	外国語学部	全4回
2	所有者不明土地・空家問題の解決方向性 ～空家対策特別措置法から民法・不動産登記法改正へ～	法学部	全3回
3	人工知能と認知科学 ～基礎知識と最新研究～	経営学部（草薙キャンパス）	全3回
4	わかりやすく教える技術 ～科学的な教え方へのお誘い～	教育学部	全2回
5	女性が活躍する職場 –イキイキと働ける職場づくり–	経営学部（浜松キャンパス）	全2回
6	人口減少/少子高齢化に対する方策	法学部	全2回
7	今だから学びたい論語 –道から仁へ–	経営学部（浜松キャンパス）	全3回
8	新しい生活様式における演奏配信の可能性	短期大学部音楽科	全2回
9	英語のヒット曲から学ぶ英語の発音 –発音のルールとリスニングのコツ–	外国語学部	全2回
10	美術館学芸員の仕事を実習する（ものを守り、活かす）	教育学部	全1回
11	現代日本の音楽を聴く Vol. 9 村松禎三「交響曲」	短期大学部音楽科	全1回
12	大人が絵本をひらくとき Vol. 8	短期大学部日本語日本文学科	全3回
13	新しい生活様式におけるストレス対処法	教育学部	全2回
14	健康栄養講座 –食生活から考えるポストコロナー	健康プロデュース学部	全2回
15	健康寿命を延ばそう！脳と身体を整える方法を学ぶ	健康学部	全2回
16	痛みに対する知識と運動 –痛みを知って、安全に運動しよう–	健康プロデュース学部	全2回
17	感染症を知り、健康寿命を延ばそう。 –新型コロナウイルスって何者？–	保健医療学部	全2回

市町等との連携による講座等

自治体や地域の生涯学習施設等と連携し、講義を実施しています。地域特性や受講生のニーズに合わせ、本学の知的資源を活かす内容を提供しています。令和2年度に実施した講座の一例を紹介します。

講座名	実施学部
静岡市生涯学習センターと常葉大学との共催講座 <ul style="list-style-type: none"> ・「戦争文学を読む－日本人作家は何を体験し、どう描いたのか」 全2回 ・「経済を学んで令和を生き抜こう」 全3回 ・「ハザードマップから考える防災講座」 全3回 ・「文化・歴史・政治を通じた他者理解－日本・ヨーロッパ・東アジアの観点から」 全3回 	教育学部 経営学部 社会環境学部 外国語学部
静岡市生涯学習センター/交流館での出前講座 <ul style="list-style-type: none"> ・「あそぼうあそぼう ABC」 (西奈・クリスマスプログラム) ・「知りたい！私のセンスアップカラー」 (西奈・地域リファイン演習) ・「フレイルとその予防」 (両河内・しあわせ大学) ・「家庭内役割と家屋環境」 (三保・女性学級エレヌの会) ・「歴史講座～明智光秀の生涯を学ぶ～」 (高部・平成義塾大学) 	教育学部・外国語学部 短期大学部日本語日本文学科 健康科学部 // 教育学部
静岡市大学リレー講座 (全5回の講義を静岡市内5大学が連携して実施) <ul style="list-style-type: none"> ・「今さら聞けない！SDGs って何？」 建築のリノベーションとSDGs 	造形学部
プレ金大学 (経済産業省「プレ金」事業に静岡市と連携して参画) <ul style="list-style-type: none"> ・「現代日本の音楽を聴く Vol.9 村松禎三「交響曲」 	短期大学部音楽科
静岡市こどもクリエイティブタウンま・あ・るでの講座 <ul style="list-style-type: none"> ・「プログラミングを通して住みやすい街づくりをしよう！」 ・「簡単！10分でスマホアプリを作ってみよう」 	教育学部 //
浜松市と大学との連携事業 大学生による講座 <ul style="list-style-type: none"> ・「めざせアスリート！走る、跳ぶ、勝つための筋肉の動き」 1回 ・「特殊詐欺撃退すごろく」 計3回 ・「「ドレミの歌」でリトミック」 計2回 ・「自分でできるセルフケア」 計4回 ・「WalkingをThinking」 計2回 	健康プロデュース学部 // // // 保健医療学部
浜松市民アカデミー (全9回の講義を静岡県西部8大学が連携して実施) <ul style="list-style-type: none"> ・「未来につなぎたい東洋医学の健康法 ～気令和とは？～」 	健康プロデュース学部
浜松市男女共同参画・文化芸術活動推進センターでの講座 <ul style="list-style-type: none"> ・「両立パパの基本のキ」 	健康プロデュース学部



地域からの期待と活躍する学生たち

防犯活動

- ・多言語の防犯ガイドブックの作成（翻訳協力）
- ・しずおかランニング・パトロールへの参加
- ・詐欺被害防止の啓蒙活動の実施
- ・サイバー防犯ボランティアへの参加
- ・青少年声掛け運動への参加



まちづくり/まちおこし

- ・まちづくりや地域活性化を目的とした事業・活動への参加
- 「草薙地区まちづくりインターンシップ」
- 「静岡市民文化会館のミライを描くインターンシップ」
- 「駿河まなびのまちづくりランドデザイン検討会」
- 「ふじえだガールズ・ミーティング」 など
- ・下田市「竹明かり」プロジェクトの紹介



福祉

- ・マスクの作成、寄贈
- ・学内フード・ドライブの開催
- ・福祉施設のイベント等への協力や運営への参加



子育て支援・学習支援

- ・「こどもむら」や「とことこクラブ」の開催
- ・ゼミ、サークル、ボランティア参加を通じた活動
- 「こどもサポーター」「高校生ぶらっとサロン」
- 「しずおか寺子屋」「学生スクールボランティア」
- 「部活動支援ボランティア」「プログラミング講座」
- 「若者ぶらっとホームやいぱる」 など



運動・スポーツ

- ・けが予防のコンディショニングセミナーの開催
- ・運動部所属の中高生、保護者への食指導
- ・運動・スポーツ習慣化促進事業等を通じた地域住民への健康増進活動



防災・被災地支援

- ・3.11 はままつ東北復光プロジェクトの推進（キャンドルナイトやシンポジウムの開催等）
- ・ハザードマップ活用講座の開催
- ・防災マップの作成指導
- ・自治体職員に対する倒壊家屋の調査指導



とこは Web 通信 —新型コロナウイルスを考える—

〔令和2年5月25日～令和2年8月6日 連載企画〕



新型コロナウイルスは、これまで私たちの経験したことのない様々な影響を世界中に引き起こしています。日本を含めて世界中が苦難を強いられている今こそ、知の拠点である大学がその務めを果たすべきであり、すべての学問分野がこの難局を乗り切るために協力して力を尽くすべきです。

そのような趣旨のもと、人文社会学系、教育・保育系、医療系、芸術系の10学部19学科の専門家を擁する常葉大学と3科を擁する常葉大学短期大学部が共同で、「ストレス解消」「免疫力強化」「感染防止」「暮らしと社会」をキーワードに、令和2年5月25日から8月6日までの全50回にわたり、知見を発信してきました。

この『とこはWeb通信』が、「新しい生活様式」の実践の中で生活をより豊かなものにするための一助となり、私たちの社会と暮らしについて考えるきっかけになれば幸甚です。

※掲載内容ならびに執筆者の職位等は掲載時点のものです。各記事の全文は右上のQRコードからご覧いただけます。

	タイトル	区分	氏名
1	言葉には「垢」がつく	暮らし社会	学長 江藤秀一（外国語学部 教授）
概略	言葉は長く使っていると色や臭いといった「垢」がついていきます。「トイレ」よりも「便所」の方が汚く聞こえる要因です。「緊急事態宣言」という言葉に“コロナ”という「垢」がつき、緊急事態宣言が解除されたたんコロナまでもが消滅したかのような錯覚に陥りました。日頃から言葉に対する感覚を磨き、落ち着いて言葉の示す対象物を考えることが大切です。		
2	アフターコロナの地域と観光：静岡の豊かな観光資源を見直そう	暮らし社会	地域貢献センター長 須佐淳司（経営学部 准教授）
概略	広い世界を見渡すと観光産業を重要視する国が多く、日本も例外ではありません。地域の中小サービス業の雇用を維持するためには、観光を手段に地域経済の活性化を図ることがとても重要です。観光は地域に根ざした産業で、アフターコロナの観光産業の復活こそが、地域経済に再生をもたらします。地域再発見の旅に出かけて消費しましょう。		
3	運動不足は心と身体に影響を及ぼします！ 心と身体の元気を維持しましょう！！	ストレス解消	保育学部保育学科 准教授 今村貴幸
概略	筋力トレーニングによる筋量の維持・改善や、ウォーキング・ジョギングなどの実施による「呼吸・循環器系の維持・改善」は、健康を維持・改善するためには非常に大切です。しかし、いきなり沢山の運動実施はかえって体調を崩すことになりかねません。まずは、在宅時間が長くなって凝り固まった全身の筋肉をストレッチでほぐしていきましょう！		
4	在宅しながら親子でできる児童英語：こどもと英語に触れて楽しみましょう	暮らし社会	健康プロデュース学部こども健康学科 講師 福田鈴子
概略	こどもの英語学習を考える時、一番大切なのは、こどもの英語への興味・関心です。何をどのように学ぶかも大事ですが、むしろ親子のふれあいの機会として英語が役に立つことを知ってもらいたいです。身近な言葉を英語に変えるだけで、英語を話している感が沸きます。英語を音遊びだと思って、親子で楽しみましょう。		
5	新たな異世界へ向かって	ストレス解消	短期大学部音楽科 准教授 塚本一実
概略	人間が300年近くも共存してきた「クラシック音楽」。その他、現代には様々な音楽があります。音楽と共生してきた我々の社会が終焉を迎えるとは考えられません。第二次世界大戦を彷彿とさせる禍「新型コロナウイルスとの戦い」ですが、共に乗り越えて行くではありませんか。音楽は心のビタミン！創作は挑戦！実験！勇気！希望！です。		
6	人生100年時代を考える	免疫力強化	健康科学部静岡理学療法学科 准教授 中村浩一
概略	人生100年時代は、健康寿命を延ばすこととの戦いでもあります。健康寿命を延ばすためのポイントは、「バランスの良い食事」と「運動習慣」です。自粛生活で動かないしていると、相対的に活動量は下がり、筋肉量も落ちていきます。新型コロナウイルスと共に生きるなかでこそ、自宅トレーニングから始めてみてはいかがでしょうか？		
7	今だから学びたい論語	暮らし社会	経営学部経営学科 教授 砂子岳彦
概略	今「新しい善のビジョン」が求められています。現代社会が規定している「善」は物質的な繁栄ですが、孔子が示した「善のビジョン」とは「仁」でした。人を矯正して理想的に作るのではなく、本来的にもっている理想をそのまま現わしていくという解釈です。人間関係がリセットされた今こそ「新しい善のビジョン」による「変容」を学んではどうでしょうか。		

		不活動による悪影響に打ち勝つ	免疫力強化	保健医療学部理学療法学科 准教授 櫻井博紀
8	概略	慢性的な痛みを苦しんでいる方は日本で約 1600 万人以上とされています。コロナ禍の自粛間によって、体力が低下し、また、活動量が低下することで痛みが増悪しているかもしれません。身体活動を維持し、筋力低下や柔軟性低下を予防して、良循環を促すことで、痛みを生じにくい体づくり、新型コロナウイルスに負けない体づくりをしていきましょう。		
		長期化する外出自粛から生じる体力低下を防ぐ ～階段のススメ～	免疫力強化	副地域貢献センター長 内田全城 (健康科学部 准教授)
9	概略	外出自粛による生活不活発病に着目し、日々の日常に“やや高い強度”の身体活動を取り入れることの大切さと、その例として階段運動を紹介します。生活様式を急に变えることは容易ではありませんが、きっかけは身近にあるかも知れません。社会を守るため、大切な人を守るため、自身を守るための答えは1つとは限りません。共に考え、行動を起こしましょう。		
		家庭教育を「判断力・想像力」を養う足場作りの場に	暮らしと社会	教育学部初等教育課程 准教授 木村光男
10	概略	コロナ禍での子どもの学習の遅れを心配し、家庭教育の重要性を実感されている方がいらっしゃるのではないのでしょうか。保護者の方へ、今だからこそ実行していただきたい子ども達との接し方を提案します。家庭での過ごし方の一部を見つめ直すことで、子どもの「判断力・創造力」を養う契機となります。家庭教育を豊かにしていただければと願っています。		
		「新しい生活様式」とこれからの社会教育	暮らしと社会	教育学部生涯学習学科 教授 白木賢信
11	概略	「新しい生活様式」の定義と、それを支える社会教育の在り方を解説します。「新しい生活様式」は一時的なもの（表層的な生活様式）なのか、この先ずっと続けなければならないもの（深層的な生活様式）なのかという疑問についても見解をまとめました。これからの社会教育は、深層的な生活様式の習得や変革にいかにかかっていると思います。		
		おうちでトレーニング ～生活機能を改善しよう～	免疫力強化	健康プロデュース学部心身マネジメント 学科 講師 井口睦仁
12	概略	コロナ禍でステイホームをしていると身体活動量（生活活動+運動）が減少します。このことによって起こる様々な健康問題(エコノミークラス症候群、生活不活発病など...)に対し、予防あるいは、改善することを目的に考えた運動を紹介します。自宅の中でできる簡単な運動ですので、暮らしに取り入れて、サルコペニアの予防・改善に役立てて下さい！		
		新型コロナウイルス時代の心構え	感染防止	保健医療学部理学療法学科 教授 鈴木伸治
13	概略	新型コロナウイルスは薬剤耐性菌と同様に厄介な存在です。マスクの着用や手指の清潔さを保つという初歩的な対策を徹底して行うことは重要だと思われまじ、少なくとも今はこれしかできないのです。心構えは皆さん一人一人が考えることですが、不要な外出を我慢し、遠隔授業に参加し、マスクをし、手指の清潔をたもち、医療従事者に敬意を払いましょう。		
		ステイホームの期間にK文学を楽しむ ～社会性を追求するK文学とフェミニズム～	暮らしと社会	外国語学部グローバルコミュニケーション 学科 准教授 福島みのり
14	概略	最近、ごく自然に陳列されているK文学をよく目にします。韓国では、女性を取り巻く環境への改善を訴えるべく若い世代の女性たちが積極的に政治参加し、それが文学になっています。このことは、日本の女性に変化をもたらしました。可視化されなかった女性の労働は、K文学やコロナという外部要因によって日本の社会問題として認識されはじめました。		
		「わかっているけどやめられない」ネット・ゲーム依存の予防	暮らしと社会	副地域貢献センター長 木村佐枝子 (健康プロデュース学部 准教授)
15	概略	コロナ禍の休校期間中に在宅時間を持て余し、スマホでのSNS・ゲームの時間が倍増して昼夜逆転、長時間利用など学校再開に向けての様々な弊害が出ています。家庭、学校、地域、関係機関と連携・協働してサポートしていく体制を構築し、正しいICTの知識・方法やトラブル回避、行動できる実践力等の予防プログラムを充実させていく必要があります。		
		新型コロナウイルスと子育て	ストレス解消	短期大学部保育科 准教授 竹石聖子
16	概略	新型コロナウイルス感染症の「子ども」に及ぼす影響に問題を絞っても、子どもの心のケアや教育の保障など、様々な問題が生じています。筆者のところにも、幼児期のお子さんをお持ちのお母さんから毎日のようにSOSが届きました。「おうち時間」の使い方や、解決策などを提案します。		
		自分らしく、今できること	ストレス解消	健康プロデュース学部心身マネジメント 学科 教授 松瀬留美子
17	概略	コロナ禍により、これまで体験したことのない生活環境の変化が起き、通常とは異なる大学生活が始まっています。行動制限が長期化すると精神状態は通常より不安定になりやすくなります。心の健康を保ち学んでいくためには、人と心理的、日常的な繋がりを維持し続ける意識を持つこと、自分自身の生活や言動を客観的に見る姿勢を保つことが求められます。		
		英語で本を読んでみよう ～絵本から児童書まで～	暮らしと社会	外国語学部英米語学科 准教授 柴田里実
18	概略	読書には「集中力が持続する時間を長くする」「コミュニケーション能力が高まる」など様々な利点がありますが、小学校から高校にかけて年々読書量が減少していくことが多くの研究で指摘されています。英語でも日本語でも、自分のレベルに合った本を読むということがとても大切です。最初の1冊は、無理のないものからスタートしてみたいかがでしょうか。		

	新型コロナウイルス感染と神経疾患	感染防止	保健医療学部 作業療法学科 教授 矢澤 生
19	概略 新型コロナウイルスの怖いところは病原体であるウイルスの特徴がわからないことで、過去に起こった細菌感染症の赤痢や腸チフスのように十分に分析されている病気とは異なることです。原因や発病機序が明らかではない感染症は他にも存在します。病気の原因や病原体の性質を解明することで治療への道が開かれます。1日も早い解明を希望します。		
	今だから濃厚な接触について考える -こどもと「触れる」というコミュニケーション	ストレス解消	短期大学部保育科 講師 馬飼野陽美
20	概略 コロナ禍において、「他者との『濃厚接触』を避ける」という言葉をよく耳にします。しかし、子どものいる家庭では、この間「濃厚接触」の機会は増えたのではないのでしょうか？人が安心、安全感を得るために、特定の他者にくっこうとするのは、生まれつき備わった行動です。子どもたちは人との「接触」を必要とし、触れあうことで互いに安心を得ています。		
	新型コロナウイルス感染症による息切れの実際と対処法	感染防止	保健医療学部理学療法学科 准教授 松村剛志
21	概略 新型コロナウイルス感染症による息切れの実際を、患者さんたちの経験談からご紹介いたしました。息切れの出現は身体的な苦痛だけでなく、不安感や恐怖心を強めてパニック状態を招く原因ともなります。医療従事者に必要な処置をもらうまでの間、落ち着いて息切れに対処するため、知っておくべき呼吸方法や姿勢の工夫についてもご紹介いたしました。		
	外出自粛中においてゲーム依存に陥らないためにできること	暮らしと社会	保健医療学部作業療法学科 教授 熊田 竜郎/助教 吉田 裕紀
22	概略 依存症とは、社会的にも大きな影響を与える怖い病気です。薬物、アルコール、ギャンブルなどが良く知られていますが、コロナ禍において外出の自粛が求められ、自宅でスマホやゲーム機器に触れる機会が増大しゲームをやり過ぎてしまうということが起こりがちです。ゲーム依存症とは何か、依存症による脳内の変化、陥らないためにできることを解説します。		
	マスクの取り扱いと簡易フェイスシールドの作り方	感染防止	健康科学部看護学科 教員有志一同
23	概略 新型コロナウイルス感染症拡大を受け、この頃ではほぼ全ての人がマスクを着用しています。皆さんはマスクを着用する目的をご存知ですか？マスクの正しいつけ方、外し方、捨て方について、ポイントを解説します。また、医療現場でのフェイスシールド不足は大きな課題となっています。簡易フェイスシールドの作り方も紹介します。		
	コロナウイルス対応から見える行政経営における意思決定の難しさ	暮らしと社会	経営学部経営学科 准教授 酒井大策
24	概略 「行政は失敗してはならない」という、暗黙の認識が行政側、国民側にあります。しかし、コロナ禍の現在、行政経営における意思決定と、それに伴うリスクを国民も認識する必要があります。行政の意思決定に伴うリスクをともに享受し、リスクが現実化した場合にはともにそれに対応していくという考えも、国民側に必要なものではなんでしょうか？		
	お家でできる名品鑑賞～その1～ 体を使って《ミロのヴィーナス》を楽しもう	ストレス解消	教育学部生涯学習学科 准教授 堀切正人 (常葉ギャラリー館長)
25	概略 「ミロのヴィーナス」。ギリシャ彫刻と言えば、この作品ですね。美の女神を表した彫刻ですので、美の代名詞、美しいものの規準のように言われています。そのわけは、理想的な体の比率が、流れるような動きのなかで実現されていることにあります。そのことを、みなさんの体を使って感じてみましょう。		
	思春期の子供達に周囲の大人ができること	ストレス解消	教育学部心理教育学科 准教授 太田正義
26	概略 新型コロナウイルスの流行によって、子供だけではなく大人の生活環境も大きく変わりました。気づかないうちに大人も大きなストレスにさらされている可能性があります。イライラが募るのはストレス反応かもしれません。話を聞いてもらう事は有効です。怒りが収まらない時は、積極的に誰かに話を聞いてもらいましょう。		
	ストレスとのつきあい方	ストレス解消	教育学部心理教育学科 教授 佐瀬竜一
27	概略 新型コロナにより生活が激変した今の状況（変化、非日常、刺激が少なすぎる）は誰でも心、体、行動のどこかにストレスが生じやすい状況であり、ストレスをためない工夫が必要です！ストレスとは何か、その特徴と対処法を解説します。大変な状況の時こそ、「お互い様の精神」でサポートを求め合うように意識しましょう。		
	絵本のすすめ ～こどもと大人の幸せな時間～	ストレス解消	健康プロデュース学部こども健康学科 講師 阿部眞弓
28	概略 赤ちゃんは自分の周りにいる大人たちから、話しかけられ、子守唄を歌ってもらい、わらべうたであやしてもらいうちに、その大人の愛情と共に言葉を獲得していきます。子ども時代に出会う絵本は、その後の長い読書生活の中でも一番大切な本となります。「新しい生活様式」の中に、寝る前のひととき絵本を楽しむ時間を取り入れてみたらいかがでしょうか？		
	ニューノーマルを先導するテレワーク ～働き方改革から生き方改革・社会改革へ～	暮らしと社会	経営学部経営学科 准教授 小豆川裕子
29	概略 コロナ禍で急速に一般用語となったテレワーク。1990年代後半からテレワークの調査研究や政策支援に従事してきた筆者がテレワークの基礎知識をわかりやすく解説。あわせてテレワークに代表される社会のデジタル変革とともに大学教育で強化すべきポイントや求められるスキル・意識についても紹介し、持続可能な個人・企業・社会の実現へのシナリオを展望します。		

	発達障害児と保護者が楽しく過ごしてストレスを緩和するスヌーズレン・テントの実践	ストレス解消	教育学部初等教育課程 教授 姉崎 弘
30	概略 新型コロナウイルス感染症拡大で教育機関の学校の休校が余儀なくされ、発達障害の子どもとその保護者が心身ともに強いストレスにさらされたケースが報告されています。ストレスを家庭でも緩和できる方法、発達障害や不登校の子どもに有効な「スヌーズレン・テント」の取組みを紹介します。心が癒されてリラックスするのに有効であると思われます。		
	お家でできる名品鑑賞～その2～ 体を使って《考える人》を楽しもう	ストレス解消	教育学部生涯学習学科 准教授 堀切正人（常葉ギャラリー館長）
31	概略 オーギュスト・ロダンの代表作《考える人》は、誰もが知っている作品です。しかし、この彫刻が実際、どのような姿勢をしているのかご存知でしょうか。実際に真似してみると、かなり厳しい体勢になります。なにかと行動に制約が多い昨今、考える人を体感しながら、その心中を思いやってみてはいかがでしょうか。		
	マスク着用は新型コロナウイルス感染拡大防止に効果があるか	感染防止	健康プロデュース学部健康栄養学科 准教授 林原好美
32	概略 新型コロナウイルス感染症で分かっていること（執筆当時（2020.6.5 時点））、「新しい生活様式」の実践例、そしてマスク着用の効果の検証と、マスクの正しい着脱の仕方について解説します。また、マスク四方山話として、マスクが日本に広がったきっかけを紹介します。		
	手洗いを見つめなおす～その手、きれいですか？～ + 言葉遊びでリフレッシュ	感染防止	健康科学部看護学科 教員有志一同
33	概略 皆さん、手洗いの効果を知っていますか？十分理解したうえで手洗いをしていますか？実は、手洗いを「しているつもり」の人がとても多いのです。手洗いが「できる」人になるための方法を紹介합니다。また、新型コロナウイルス感染拡大により、知らず知らず緊張が続いています。一人でも家族でもできる、たのしい暇つぶし方法をご紹介します。		
	あしのツボもほぐし	ストレス解消	健康プロデュース学部健康鍼灸学科 准教授 藤田 格
34	概略 家の中にいて、あまり動かないと身体がだるかったり、重く感じられることはありませんか？そんな時は外で運動が一番ですが、東洋医学の経絡や経穴（ツボ）を活用することもオススメです。東洋医学では身体を構成している物質やエネルギーが身体の中をきちんとめぐることによって健康が維持されると考えています。		
	東洋医学を楽しく学ぼう ～Web で外に出かけよう～	ストレス解消	健康プロデュース学部健康鍼灸学科 准教授 村上高康
35	概略 東洋医学は古くから人々の健康維持に貢献しており、とても身近な存在です。コロナウイルスで外出できない時に手足のツボを押ししたり、薬膳やアロマセラピーで体調管理やリラックスさせるのにも東洋医学の理論は利用されることがあります。東洋医学を身近に知ることができる博物館等をご紹介します。ウイルスが収束した時には、ぜひ足を運んでみてください。		
	実際の生命に触れる：親子で生命を育てて美味しく食べよう	暮らしと社会	健康プロデュース学部こども健康学科 准教授 中村俊哉
36	概略 作物を育てて作って食べる「食農保育」では、生長する生き物から生命を、人と協力して育てて作って食べる楽しさ、生命をいただいて生きていることなど、多くのことを学んでいきます。子ども達が生命の大切さ、重要さを実感するには、言葉だけで伝えるだけではなく、様々な生命に直接関わっていくことが大切なのです。		
	サイエンス・コミュニケーションで子どもたちの学びを育む	ストレス解消	造形学部造形学科 講師 村井 貴
37	概略 科学技術広報研究会（JACST）は自宅で学ぶ子どもたち向けに、「休校中の子供たちにぜひ見て欲しい科学技術の面白デジタルコンテンツ」を公開しました。この中には、サイエンス・コミュニケーションを研究する筆者が携わったものもあります。自宅学習の中の子どもたちの学びにつながり、今後の学校教育での気づきになるのであれば幸いです。		
	「平成」から「令和」へ：2020 コロナ・ショックを歴史的に見る	暮らしと社会	教育学部初等教育課程 教授 井上 亘
38	概略 戦後長く「中流意識」をもっていた日本人は、平成に入って貧困・富裕層へと上下に「格差」が開き、政治的には保守・リベラルと左右に「分断」されたところへ、令和のパンデミックが起きました。国民を「自粛」させる「同調圧力」はかつての「国体」の亡霊なのか？今われわれは歴史の大きな分岐点に立っているのです。		
	「書き言葉」とコミュニケーション	暮らしと社会	経営学部経営学科 講師 山田雅敏
39	概略 「言葉があなたの人生を決定する」メールや SNS で使用される書き言葉の性質について、人工知能・認知科学の観点から解説します。書き言葉はコミュニケーションを促進させる反面、阻害する可能性もあるなど諸刃の剣となり得る情報伝達ツールです。伝えたい情報を丁寧かつシンプルに発信することによって、良いコミュニケーションを図ってもらえればと思います。		
	絵本を読んでみましょう	ストレス解消	保育学部保育学科 教授 古橋和夫
40	概略 絵本は声に出して読まれることを求めています。子どもが文字を読めるようになったとしても、絵本を読んでやるのが大切です。また、声に出して読むことで、魅力がさらにます絵本があります。言葉は音声のなかで生きてきます。読み手が、絵本にいのちを吹き込んでください。絵本の世界の中で楽しくおもしろい体験をいっぱいして下さい。		

	バランスのよい食事で毎日を健やかに過ごしましょう	免疫力強化	健康プロデュース学部健康栄養学科 准教授 野末みほ
41	概略 2005年に厚生労働省と農林水産省から「食事バランスガイド」が公表されました。この食事バランスガイドの概要と、使い方を説明します。食事バランスガイドでは、1食の食事ではなく、1日の食事として食事のバランスを確認することができます。毎日を健やかに過ごすために、ご自分の食事のバランスを確認するために活用してみたいかご紹介します。		
	チャレンジしてみよう！ 看護スケルトンパズル	ストレス解消	健康科学部看護学科 助手 野村健太/ 講師 原澤純子/准教授 岡本典子
42	概略 看護の分野では、様々な専門用語が使われます。また、一般の言葉でも、看護特有の意味や使われ方があったりします。それらを集めて、パズルにしてみました。コロナ禍でストレスフルな毎日を過ごされている方も多いと思います。脳トレに、リモートワークの気分転換に、まずはこのパズルを解いてみてください。		
	コロナ禍のもとで「ひきこもり」について考える (第1回) ひきこもり当事者の「できない」という文脈	暮らしと社会	教育学部生涯学習学科 講師 那珂 元
43	概略 近年、メディアで「ひきこもり」ということばを頻繁に見聞しますが、長期に渡って自宅にひきこもり続けている方々の存在が大きな社会的な問題としてクローズアップされ始めています。では、ひきこもり状態とはどのような状態なのか、ひきこもり当事者への望まれる支援とは何なのかを、「できない」という言葉をキーワードに紐解いていきます。		
	アース・ワークスを訪ねて	ストレス解消	教育学部初等教育課程 教授 長橋秀樹
44	概略 「アース・ワークス」とは主にアメリカ西部において1960年代後半から70年代初頭にかけて美術界に出現した表現形態です。その作品群はアリゾナ州・ユタ州など一般の人の侵入を拒絶するような過酷な環境下に点在しています。筆者が1997年に行なったアース・ワークスの調査手記を紹介します。		
	静岡まちなかハイキング in 谷津山 -新しい行動様式での野外活動-	ストレス解消	健康科学部看護学科 教授 白石葉子
45	概略 新型コロナウイルスに係る感染防止対策はこれからも行う必要があり、3密を避け、マスク着用、手洗い等は必須です。そのような中、皆さんは健康づくりや気分転換をどのように行っていますか？ 現段階における野外活動時の対策と、すぐにも体験できる静岡市街での野外活動の実際を紹介いたします。		
	紙と鉛筆と小さな花。そして今という瞬間に在ること	ストレス解消	造形学部造形学科 教授 田宮話子
46	概略 1回目の緊急事態宣言が解除され、学内での対面授業が再開し、制作に打ち込む学生たちの姿が教室に戻ってきました。生活が落ち着いてくると、以前に近い生活に戻ってきた事の喜びと、外出を自粛しながら過ごしたりリモート授業期間中の「大切な気づき」に対して感謝したいと思うようになりましたので、皆様に紹介させていただきます。		
	コロナ禍のもとで「ひきこもり」について考える (第2回) ひきこもり事情の国際文化比較	暮らしと社会	教育学部生涯学習学科 講師 那珂 元
47	概略 「ひきこもり」について考える第二弾。今回は、ひきこもり事情の国際文化比較として、日本とフィンランドのひきこもり事情を取り上げ、両国の社会や文化との比較を交えながら、グローバルの視点から「ひきこもり」について考えます。欧米の人たちの持つ日本の「ひきこもり」観、当事者のニーズの国際比較、日本のひきこもり事情の問題点を解説します。		
	私たちの「裁判へのアクセス」	暮らしと社会	法学部法律学科 講師 和田武士
48	概略 コロナ禍での裁判手続について報じる雑誌や新聞記事を読み、筆者は「人々の行動が制限されるなかで、なぜ日本は裁判手続のオンライン化を積極的に推し進めないのだろうか」という疑問を抱きました。この時代において、日本の裁判手続は海外諸外国と比べオンライン化が遅々として進んでいません。「裁判へのアクセス」の視点からこの問題点を解説します。		
	新しい生活様式における演奏発信の可能性	ストレス解消	短期大学部音楽科 准教授 井上幸子
49	概略 コロナ禍で音楽界がどのような変化を見せたかを、一人の演奏家としての視点で語ります。コロナ禍で失われたものが多くある一方、その中で新たな配信手法が生まれ、世界中の無限の観客に音を届けられるようになりました。また、逆境を逆手にとったコンサートも誕生しています。中高生からプロの演奏家による事例や、筆者自身の取り組みを紹介します。		
	コロナ禍のもとで「ひきこもり」について考える (第3回) ひきこもり当事者の持つ規範意識と情報貧困	暮らしと社会	教育学部生涯学習学科 講師 那珂 元
50	概略 「ひきこもり」について考える最終回。今回は、ひきこもり当事者がひきこもり続ける背景について、心理的・社会的な視点、とりわけ、自己防衛意識と社会規範意識の二つの側面から考えます。この時期にこそ、「ひきこもり」という状態について深く考え直してみたい、というのが私の思いであり、全三回連載を通じての問いかけです。		

発行 令和3年4月

常葉大学 地域貢献センター



常葉大学
常葉大学短期大学部

<https://www.tokoha-u.ac.jp/>
<https://www.tokoha-jc.ac.jp/>



[草薙地域貢献課]

〒422-8581 静岡市駿河区弥生町 6-1
TEL : 054-297-6142

[水落地域貢献課]

〒420-0831 静岡市葵区水落町 1-30
TEL : 054-297-3200

[浜松地域貢献課]

〒431-2102 浜松市北区都田町 1230
TEL : 053-428-6748